

医療、保健、介護一体の地域病院目指し 「病院移転」次期中期目標で検討へ

さんむ医療センター評価委へ市が提出 設立団体(山武市)一歩踏み込む

24年度の病院経営実績は4億余円の黒字

地方独立行政法人さんむ医療センター評価委員会(村上信乃委員長)は、同医療センター(坂本昭雄理事長)の平成24年度事業実績及び財務報告をほぼ目標を達成したとして7月24日承認した。また同委員は、センターの設立団体、山武市(椎名千収市長)から提出された次期中期目標案(26年4月1日から29年3月31日)を検討、水田宗子委員提案の一部修正箇所を除き大筋で了承した。

次期中期目標は現行目標より一歩踏み込んだ病院の施設整備及び移転の検討を視野に入れている。その根拠として地域の病院として医療、保健、介護を健診から在宅まで三位一体で切れ目なく住民に提供することを目指すためとしている。

また目標年度を現行の4年から今回3年、次回3年をセットにし中、長期の展望に立った目標設定とした。その理由として病院を取りまく医療環境が著しく変化することが予想される、としている。その変化に対応するためには単年度中に見直す可能性もあると市は示唆していた。

修正後、市は24年度事業実績及び財務報告とともに9月議会に提案、同意を得て正式目標とする。医療センターはこの目標実現に向けて中期計画を作成、11月の評価委へ提出。承認を得

たうえで市が12月(または来年3月)議会に再び報告、同意後26年4月から中期目標に沿った中期計画が正式に運用される。経営状況の説明によると、24年度の入院患者、外来患者とも目標数値には届かなかった。しかし患者一人一日当たりの診療単価が上がった、費用の節減効果などで前年実績を上回った。結果、約4億89万円の黒字を生んだ、という。



24年度事業実績と次期中期目標案を聞く評価委

これに対し亀田信介委員は「財務内容は民間では考えられないほど好調だが、経営で一番心配なのは人的資源の確保だ。医師、看護師のスタッフの確保ができるかどうかだ。また医師のバランス(常勤医28人のうち内科医6人)がこれでいいのか考えるべきだ。それぞれの診療科でバランスを取った医師の配置が大事だ」と提言した。

中期目標に新たに加えられた「病院の移転」について長隆委員は「建物、土地をいづるまでに取得して建物、施設はどういうものを予定しているのか。収支計画、利用計画を示してもわからないなども言えない」と質した。市側は「この点は現在作業中である」と答えた。

今評価委から故伊藤俊雄山武市三師会会長の後任として伊藤よしみ氏が出席、活発な意見表明を行った。また椎名市長は「単独で頑張って病院を存続させるための次期中期目標」と述べ、坂本理事長は「自分たちでできることを自分たちで行う」と語った。最後に村上委員長から「24年度は順調に推移したが、目標最終年度の25年度も大丈夫か」の念押しがあった。

◇出席した評価委員
(順不同、敬称略)
村上信乃(旭中央病院名

SHIN CHIBA TIMES SHIN CHIBA TIMES SHIN
新千葉タイムス
SHIN CHIBA TIMES SHIN CHIBA TIMES SHIN

新千葉タイムス(株)
発行人 鷗 沢 秀 夫
本社 〒286-0041
成田市飯田町108-25
TEL.0476-26-8757
FAX.0476-26-8767
購読料 1か年 10,000円
6か月 5,000円

印旛医療学園都市
**日本医科大学
千葉北総病院**
TEL 0476(99)1111(代)
印旛日本医大駅より
シャトルバスあり

菅院長、長隆(東日本税
理士法人代表社員)、伊藤
よしみ(山武市三師会会長)、
小川吉孝(山武市議会議員)、
加藤誠(成田赤十字病院院
長)、亀田信介(亀田総合
病院院長)、水田宗子(城西
国際大学理事長)